

競技者必携2017の改訂について

平成29年2月24日

頁	現行	改正	改正根拠
連盟規程細則 第3条 2 (3)、3 (2)	背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将を10番とし、選手は0番から27番とする。	背番号は監督30番、コーチ29番、28番、主将を10番とし、選手は0番から99番とする。	理事会で審議改正
連盟規程細則 第12条 5 (3)	背番号は0番から30番までとし、参加申込書に記載されている選手は全員必ずつけなければならない。	背番号は0番から99番までとし、参加申込書に記載されている選手は全員必ずつけなければならない。	理事会で審議改正
連盟規程細則 第12条 5 (4)	監督30番、主将10番、少年部、学童部のコーチは29番、28番とする。また、一般チームでコーチをおく場合も29番、28番とする。	すべての登録チームで、背番号は、監督30番、主将10番、コーチは29番、28番とする。	理事会で審議改正
連盟規程細則 第12条 5 (8)	スパイクは全員、同色のものでなければならない。ただし、ワンポイントの商標については同色とみなす。また、学童部は、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。	学童部は、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。 * スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。	理事会で審議改正
16	17 サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、ミラーレンズの使用を禁止する。	20 サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。	理事会で審議改正
42		(28) 投球の義務(5.10i関連) すでに試合に出場している投手がイニングの初めにファウルラインを越えてしまえば」とあるのを「投球練習するために投手板に位置してしまえば」に読み替える。	「規則適用上の解釈」に項目を追加
42		(29) 監督またはコーチがマウンドへ行く制限について(5.10l関連) 監督またはコーチがマウンドへ行く回数のカウントの仕方について、アマチュア規則委員会より、2015年2月、MLBおよび国際大会の基準として、下記1～4が提示されたが、全日本軟式野球連盟では下記「1」と「4」は採用するが、「2」と「3」は採用しない。 1 監督またはコーチがファウルラインを越えて投手のもと(マウンド)へ行った場合は必ず1回に数える。(ただし投手交代の場合を除く) 2 イニングの途中で監督またはコーチが投手のもとへ行き投手交代をする場合:新しい投手がマウンドに到着し、その投手がウォームアップ(準備投球)を始めたならば、その監督またはコーチはベンチに戻らねばならない。もし、そのままとどまっていた場合には1回と数える。 3 新しいイニングの初めに、監督またはコーチがマウンドに行った場合:1回に数える。 4 球審(審判員)は、監督またはコーチに投手のもと(マウンド)へ行った回数を知らせる。	「規則適用上の解釈」に項目を追加